

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. B-10

<b>部門名：</b> 働き方改革実践部門	<b>エントリー名：</b> 高松市立中央小学校
<b>活動名：</b> 双方向型の働き方改革 ～中央小ミライ・プロジェクトの歩み～	
<b>解決すべき課題：</b> 平成 30 年 4 月から働き方改革 2 本柱「在校時間：12 時間まで」「最終退勤時刻：20 時から月 5 分ずつ前倒し」を推進してきたが、同年 7 月の学校評価で以下の課題が教職員から指摘された。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間行事が多い。特に 4 月は学習参観や PTA 総会、家庭訪問が多い。</li> <li>○ 曜日で日課（時程）が異なっていて、子どもも教師も戸惑う。統一できないか。</li> <li>○ 放課後に様々な会合がある。児童への個別指導が十分できないし、退勤時刻も守れなくなる。</li> <li>○ 職員数に対して職員室が手狭である。動線や作業場所の確保を考えてほしい。</li> <li>○ 働き方改革の推進で最も圧迫を受けるのは、経験の浅い若手教員である。声をしっかり聞いてほしい。</li> </ul>	
<b>目標・方針：</b> 「子どもも教員も充実した未来の中央小学校」のための働き方改革推進プロジェクトの立ち上げ <b>【中央小ミライ・プロジェクト】主幹教諭（座長） + 若手教員 7 名</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">写真 1</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 双方向性の確保：改善案の校長への提言 + 校長の改善案についての検討</li> <li>・ 校長の役割の明言：提言の尊重 + 速やかな実行 = 全責任を負う</li> </ul>	
<b>活動内容：</b> 平成 30 年度は全 10 回、15：50～16：30（40 分間）開かれた。今年度も同様の流れで行っている。令和 3 年度に開催する道徳の研究会に向けて、12 月までに組織改編を行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表 1</span>	
<b>活動の成果：</b> 【学校行事、事務処理、職場環境、家庭・地域との連携】の 4 つの観点から見直しを図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日課の統一：朝の活動を廃止 + 全体を 15 分繰り上げ → 放課後が充実し、個別指導もしやすくなった。</li> <li>○ 家庭訪問の見直し：希望制 + 3 日間に短縮 → 30～60%の減少。家庭からも好評で、反発もない。</li> <li>○ 会議の精選：職員会議は 2 ヶ月に 1 回 + 専門部会は必要時のみ → 大きな支障はない。</li> <li>○ 卒業式練習の簡素化：在校生呼びかけ代表 2 名 + 4 年生以上のみ参加 → 練習時間を 3 割削減。</li> <li>○ 放課後水泳の転換：強化の中止 + 泳げない児童への指導に特化 → 22 回から 5 回に減らせた。</li> <li>○ 通知表の見直し：学期毎の回収 + 児童振り返り欄の廃止 → 家庭、教員双方の手間が省けた。</li> <li>○ 職員室の環境整備：断捨離 + 共用の作業機の設置 → 動きやすくなり、職員の会話も増えた。</li> <li>○ 運動会の見直し：地区体協と連携 + 種目や演技時間の削減 → 練習期間を大幅に短縮できた。</li> </ul>	
<b>アピールポイント（アイデアや工夫）：</b> プロジェクトの存在が、全教職員の意識改革につながっている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若手教員を起点に共に働き方改革に取り組もうという参画意識の醸成</li> <li>○ 慣習にとらわれない若い感性による斬新で具体性のある改善案</li> <li>○ 校長が発案した改善策に対する現場感覚によるチェック機能</li> <li>○ 最終退勤時刻（月 5 分ずつの前倒し）の遵守〔1 年かけて 20 時 → 18 時 50 分〕 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">図 1</span></li> <li>○ 勤務時間に関する意識の高まり〔時間外勤務が月 45 時間以上の者の減少〕 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グラフ 1</span></li> </ul>	

写真 1：第 1 回ミライ・プロジェクト（平成 30 年度 9 月） 話し合いの（左）と課題の板書（右）

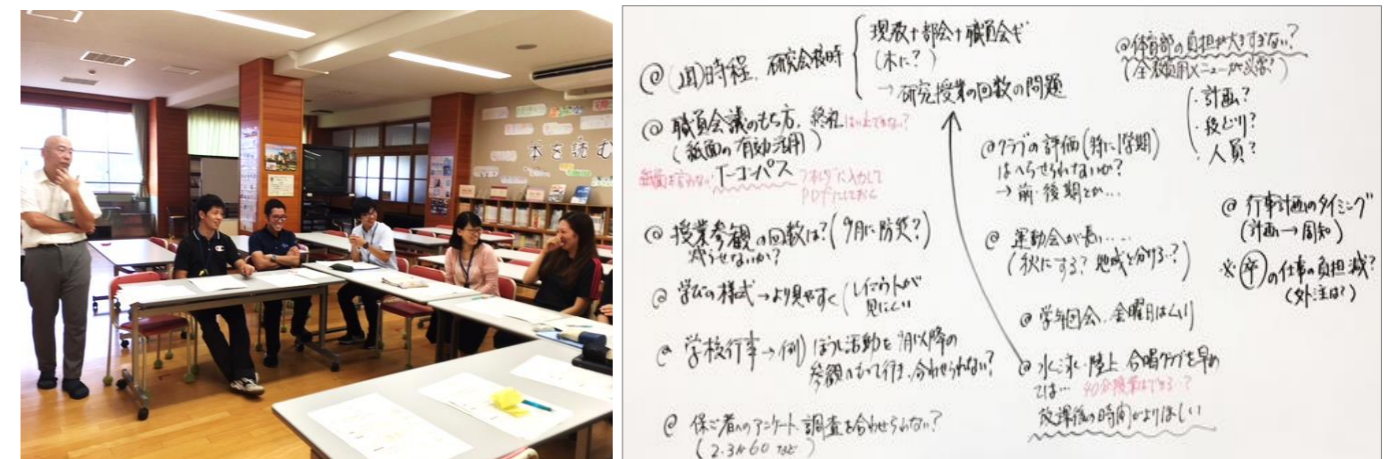


表 1：ミライ・プロジェクトのスケジュール

時期	回数	主な内容等
H30. 9	1 回	プロジェクトの立ち上げ
H30. 10～12	5 回	課題の洗い出し及び改善案の検討
H31. 1～2	3 回	改善案をまとめ、校長に提言する。
H31. 3	1 回	次年度の年間行事予定や週時程等への反映
H31. 4	1 回	職員会議での周知
R1. 5～7	3 回	これまで実施した改善策の成果と課題についての検証
R1. 8～	6 回	課題の洗い出し及び改善案の検討、組織改編に伴う新メンバーの選出など

図 1：最終退勤時刻を呼びかける掲示



グラフ 1：時間外勤務 月 45 時間以上の職員比較

